**神道と仏教の関係について**
　　十一月号から始まった三部作シリーズ

の今回は最終編です。前回十二月号では【「悟り」とは、原因と結果を知ること】や【仏教派中国から日本に伝来する】。

そして、【日本仏教派日本のオリジナル】ということで、仏教が奈良時代に日本へ伝来した当初、貴族らエリート層が学ぶ教えだった学問としての仏教が、遣唐使として登場した僧侶の、最澄と空海。平安時代、彼らが日本にもたらした仏教によって、ようやく一般庶民にも仏教が弘まるようになったというお話までいたしました。そこで今月号では【神道と仏教の関係について】と題して、私が体験した仏教修行の内容や、仏教で説く「悟り」などについて解説させて頂こうと思います。皆さまには、より仏教を身近に感じて頂ければと思っております。ではまいりましょう。
●**【南無阿弥陀仏と南無妙法蓮華経】**
　日本で庶民にとって、本当の意味で仏教が身近な存在になったのは、奈良時代から４００年ほど経った鎌倉時代になってからの事でした。鎌倉時代になると、浄土宗や浄土真宗といった仏教宗派が成立します。この２つの宗派は、完全に日本生まれ日本育ちの仏教宗派です。奈良時代から、平安時代を経て、日本で信仰されてきた仏教を元に修行している最中、鎌倉時代という時代背景もありました。極端な話、何時この命が無くな

るやも知れないという切羽詰まった大変な時代。従来の修行に意識を置いて、オチオチ修行に専念することなど適わない時代です。であれば、もっと簡潔に、もっと分かり易く、仏様を信仰する術は無いのか？

という事で、生み出された浄土系の宗派でした。この浄土系の宗派の特徴はズバリ！「南無阿弥陀仏」とお唱えさえすれば、後生安穏に成仏できるといった、とっても簡潔明瞭な信仰方式を取られたという事です。先に法然聖人が浄土宗を開き、普段から１回でも多く「南無阿弥陀仏」と唱えなさい。そうすれば救われるという教え、その後に成立した親鸞聖人の浄土真宗では、唱えたくなったらで良いので「南無阿弥陀仏」を唱えなさい。何なら、口に出して唱えなくても、心で思うだけでも良い。仏様はそんなあなたを救い取って下さるから心配しなくても大丈夫という、本当に究極の信仰布教を展開されました。庶民にとっては、ただ「南無阿弥陀仏」と唱えるだけで、特別大変な修行などせずとも救われるという教えは、とても手軽で、革命的な信仰として全国に広まることになりました。それ以来、浄土系の信仰は爆発的に広まり、今でも日本で仏教と言えば「南無阿弥陀仏」というイメージが強いのです。実際、日本で一番信者数が多いのも浄土真宗ということになります。
　そういう意味では、現在日本に弘まっている仏教派、本来のお釈迦様が悟り弘められようとした仏教の形態からは遠く離れすぎてしまった感も否めないという事になります。もともとお釈迦様が伝えられたのは、権力やお金などの執着を手放して、欲望から離れることでした。法然聖人や親鸞聖人が登場なさった時代背景を考えると、一つの布教方法として、私はありだとは思っておりますが、時代が移っても、信仰の在り方を変えない姿勢には、私も待ったをかけたいと思う事もあります。そんな、ある意味堕落したように見える日本仏教の姿に警鐘を鳴らされたのが日蓮聖人でした。日蓮聖人意外の日本仏教宗派は「今までの仏教の考え方も分かるけど、実はこういう解釈も出来る」といった形で成立していきましたが、日蓮聖人は「お釈迦様が悟られたのはこういうことでしょう。もっとお釈迦様の御心に還るべきではないか？！」という事で、かなり激しく訴える事になりました。
　各宗派の開祖達の中で、日蓮聖人は一番最後に誕生されました。いわば、これまで弘まっていた仏教、日本に伝来していた日本仏教を隈無く読破し、本当の仏教の教えは何処にあるのか？どの教えが真実なのか？ということで、一切経とか、大蔵経とも呼ばれる、数多ある仏教経典を一通り目を通すこと、全部で３回にもわたったようです。日数にして十数年に及んだ研究の結果、日蓮聖人は、一切経の中で【法華経】あるいは【妙法蓮華経】という御経典こそが、人々を幸せにする悟りの教えだということを突き止められ、身命（しんみょう）を惜しまずの布教伝道と、日々の修行を勧める御一生を送られました。そうした私達の先人達の努力とご活躍によって、神道の上に乗っかる形で、私達の生活には切っても切れない宗教として、日本仏教が今日に伝わっているというわけです。

●**【仏教は人それぞれの捉え方で良い】**
仏教は本来、大変な修行を通して自分の

心を見つめるための教え。浄土系が流行し

た背景には時代の風潮が色濃くありまし

た。あの時代であれば、とても分かり易く、

庶民の心を救うには、必要なタイミングで

の教えだったと思われます。それによって

仏教や仏様の御存在が身近に感じられるよ

うになったと言う意味では、多大な影響を

日本に与えました。日蓮聖人は、それまで

の仏教をブラッシュアップなさって、より

庶民の意識を真理に向けさせられました。
令和のこの時代に、私達は仏教に触れる

事があります。多くの戒律が取り決められ

ていたお釈迦様の時代があって、五戒とい

う５つのルールに絞られた時代がありまし

た。何でも大丈夫な大乗仏教ではなくて、

何でも大丈夫な懐の広い仏教だからこそ、

意識すべき事は意識をし、やるべきはシッ

カリやらないと、もはや仏教では無くなっ

てしまう可能性もあります。
私が思うに仏教とは、人生を生きる上で

の取扱説明書のようなものだと思っていま

す。自分の人生を生きるのは、あくまで自

分自身です。思い出してみて下さい。お釈

迦様のお悟りは、苦悩という執着心や煩悩

と呼ばれる我欲を手放す事にありました。苦しみの世の中で、その苦しみを受け容

れる事が、苦しみに心が縛られない方法で

したよね。１０人いれば１０通りの悩みや

苦しみが存在します。そうした自分の心を

解放する為の方法が解説されているのが、

仏教の教えだと思います。仏教が人生のト

リセツだと言うのは、佛教の教えに触れた

人が、ご自分の心を解放する術を、十人十色で解説されていて、その人の魂レベルに合わせて受け取られるからでもあります。
●**【修行経験は私の宝物】**　私達僧侶は、自分の心に執着せず、心　　　　　を解放する為に修行を重ねます。これは各宗派で様々な修行方法が設定されていると思いますので、日蓮宗の修行で私が体験した大変な修行を簡単にご紹介致しますね。
　私自身、後にも先にも一番大変だった修行が初心の頃の修行でした。
　何が大変だったかと言えば、自分という存在を完全に打ち消す修行を、最低１年間にわたり実践させられた事です。いま振り返れば、あれほど有り難い修行期間を設けて下さった修行生活には感謝しかありません。どのような修行生活だったかと言えば、現代では大問題になるような、正直、皆さまには想像できないような過酷な修行生活でした。
　まず、自分の名前や立場、地位や名誉などと言った世間で通用していた表面的な栄光や、見栄や、自信など、全てを脱ぎ捨て、ゼロにさせられます。少しでも我欲や自分らしさのような個性が出ると、徹底的に完全に潰されます。勿論、それまで自分の人生で経験して得た功績や実績など、何の役にも立ちません。　　暑い寒い、眠い苦しい悲しい楽しいといった一切の感情、固定観念、一切の執着心を全て脱ぎ捨てる修行。２４時間監視下の中、私語はダメ、口答えもダメ、自分の意見など通用しない世界。日を追う

ごとに、肉体的にも精神的にも、四六時

中陰険に追い詰められ、傷の癒えることが無い毎日。
　新聞やテレビやインターネットなど以ての外、そんなものは存在しない世界です。外部との連絡も一切断ち、修行道場で何か問題があれば、直接自分とは関係の無いことだったとしても、全部自分責任論で、甘んじて自分が責任を負う･･･。そのような状態で、とことん自分の自我を削り取っていく作業から修行が始まります。まず、自分が手に持っている物を全て削ぎ落とす修行が完了しないうちは、何かを得る為の修行には入れません。
そうやって、お釈迦様が到達された煩悩に縛られない柔軟で強い心を構築する基盤を作っていくわけです。
　先ほども申し上げましたが、本当に、こういったある意味極端な修行生活を経験してきたことが、今の私にとって、何よりの宝物になっています。本当に有り難いことだったと心底感謝している経験の１つでもあります。
　世間では、坊主丸儲けとか、金満坊主なんて揶揄（やゆ）される昨今ではありますが、私自身とっても残念な気持ちになります。日本仏教には様々な宗派がありますし、その宗派ごとによって修行内容も全然違いますので、他の宗派のことは何も言えないのですが、少なくとも、私はこの時代に生まれ、あのような過酷な修行に専念させて頂けた経験が積めたことが、本当にラッキーだと思っています。
　一般的には、なかなか理解できないことだろうとは思うのですが、自分の心の根底から自我を削ぎ落とす修行ができたことに、そうした経験を経た今、日本仏教を弘め伝えていける立場にある事に、心から有り難いと思っています。
　さて今回は、日本人に最も身近な宗教である仏教の真実、お楽しみ頂けましたでしょうか？
　私にとっての悟りというものは、人それぞれの悟りがあると言っても過言ではありません。仏教の開祖は人間ガウタマ。お釈

迦様や仏様と尊ばれている方が、私達と同じ人間ガウタマだったという事実に驚かれた方もいらっしゃったのではないでしょうか？仏教に絶対神と呼ばれる様な存在がいらっしゃらないのには、仏教の開祖が私達と同じ人間だったという理由からです。私達と同じ人間だった一人の王子様が、到達なさった悟りは、自分の心に抱いている執着心を手放すことでした。
　私達も、自分の心に抱く煩悩を、少しでも手放せるように、魂磨きの日々を志してみられては如何でしょうか？
今回のお話で、少しでも仏教に興味を頂いていただけると幸いです！

合掌　副住職　谷川寛敬

**かんちゃん住職（谷川）**の

著書**「魂磨き　開運」**

全国各書店、Amazon、楽天

**真成寺**でもお買い求め頂けます。

**サインを書いてお送りも出来ます。**

****



**かんちゃん住職（谷川）**の

著書**「魂磨き　開運」**

全国各書店、Amazon、楽天

**真成寺**でもお買い求め頂けます。

**サインを書いてお送りも出来ます。**

　　　****